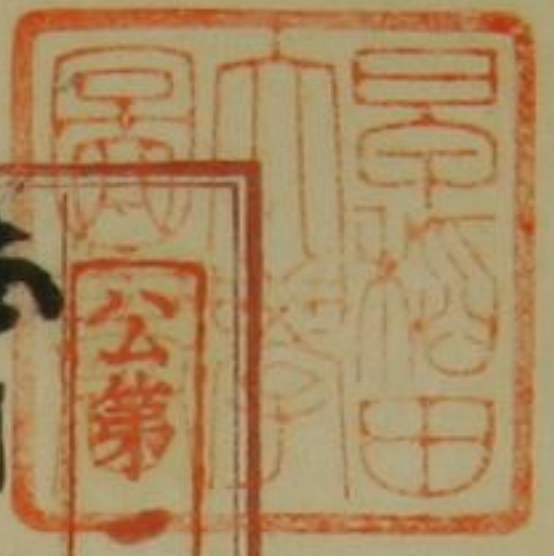


414
A 762

外務部



公第一五五八號

去月十一日付公第一三四六号ヲ以テ進達仕置
候在魯國我公使館報告魯帝弒虐及裁
正記前号、續接到候間右写史、進達仕
候也

七月七日
外務部
受付

大正十一年四月
限正候爵郵寄贈

明治十四年七月五日
外務卿代理
外務大輔上野景範
大政大臣三木實美殿



露帝弑逆罪犯判決書 前号ノ続キ

第二

凶徒等前条ノ舉ト同時ニラデツサ及ヒ莫斯科ノ兩
 府ニ於テモ地雷ヲ以テ先帝乘御ノ汽車ヲ炸裂セ
 シメント其設備ヲナセリラデツサ府傍ノ鐵道ニ於テ地
 雷火爆發ノ豫備ヲ為セシメ付本臨時裁判ニ附セ
 レタル被告人ニ關スル事實モ如シ被告人ニツライニキ
 バリテハ一千八百七十九年ノ春激烈黨ニ尽力シ以テ
 其事業ヲ贊成セント志シラウヤトコッフスキ既ニ死刑ニ處
 セラルル國事犯
 者ヲ以テ其意ヲ誣黨ニ致シ仍テ以テ為リ誣黨ノ政府ト
 戰フヤコシテミドノ如キ爆藥物ノ力ヲ假ラヌバアルベカラ
 ズ故ニ自ラ其製法ヲ研究ニ當ラント没心ニ爾來此
 學科ニ係レル事ヲ博覽シ遂ニニトログリーツニ

ト 卷 頁

「シテ」ニ「得」ノ「製造」ヲ「學」ヒ「得」タリ是ヨリ「該黨」ハ「常」ニ「爆発物」ノ「製造」ニ「從事」セリレツク「會議」ノ「後」同人ハ「ラ」デ「ツ」テ「府」ニ「往」キ「マ」ク「シ」ム「ベ」ト「コ」フ「イ」ウ「ニ」キ「ト」称「シ」建「テ」リ「サ」ウ「エ」タ「ト」共「ニ」住「居」シ「一」千「八」百「七」十「九」年「ノ」秋「該」黨「ノ」者「諸」所「ニ」於「テ」愈「ク」先「帝」ヲ「逆」ノ「舉」ヲ「遂」ニ「ト」没「議」セ「シ」旨「報」知「ヲ」得「ル」ヤ「同志」ノ「者」ト「共」ニ「ヲ」デ「ツ」テ「府」ノ「傍」ニ「地雷」ヲ「設」ケ「先」帝「乘」御「ノ」汽「車」ヲ「破」裂「セ」シ「ム」ル「豫」備「ニ」從「事」シ「之」カ「為」メ「必」要「ノ」物「品」ヲ「具」備「シ」兼「テ」所「持」セ「シ」ル「一」ル「フ」ノ「榮」條「ヲ」ウ「エ」シ「タ」リ「ノ」高「店」ニ「托」シ「テ」修「復」ヲ「加」ヘ「シ」カ「其」修「復」充「分」ナ「ラ」ズ「リ」シ「ラ」以「テ」ロ「ゼ」リ「タ」リ「ノ」高「店」ニ「於」テ「新」ニ「一」ツ「ノ」榮「條」ヲ「買」入「レ」メ「リ」後「十」先「帝」ヲ「リ」ヤ「ヨ」リ「ヲ」デ「ツ」サ「ラ」徑「ス」シ「テ」還「奉」シ「玉」フ「ト」確「報」ヲ「得」タ「リ」シ「時」右「榮」條「二」箇「ノ」内「一」箇「ハ」ア「レ」キ「サ」シ「ト」ロ「フ」ス「ク」府「ニ」送「リ」タ「リ」其「故」ハ「該」府「ニ」アル「同」謀「者」ノ「所」持「ス」ル

榮條ハ良品ナラザレヲ以テナリ

第三

一千八百七十九年十二月十九日午後十時過キ先帝供奉者ヲ乗載セル汽車ハムスコ通りノ缺道ニ由テ莫斯科行ニ至ラント同府ノ停車場ヲ距ル一二三ウヨルスダノ地ニ達セシ時缺道ノ下ヨリ地雷爆発シカノニ汽罐車二輛荷車一輛ハ分離シ他ノ荷車一輛ハ轉覆シ客車八輛缺道ヲ外レ何レモ多少ノ破損ヲ蒙リタレシカ乘客及ヒ其他ニ居合セタルモノハ無難ナリキ右ノ爆発ハ全ク凶徒ノ所為ニシテ先帝該車中ニ在リト思拜シ孰逆ヲ遂ントシタルモノナリ檢察官等現場ヲ臨檢セシニ缺道ノ下深サ凡ソ二サセシノ處ニ地雷ハ沈アリ此坑ヨリ缺道ヲ距ル一二三ウヨルノ地ナル一屋ノ林下迄板ヲ以テ覆ヒメル三角ノ隧道ヲ造リ雷氣線ヲ通セリ該屋

是ヨリ先キヤラフ一平民エホルコフト称セシ者ノ購ハセシモ
ノニテ屋内損現セシニ二階ノ上ナル一ノ櫃中ニフルーコルコ条
條ヲ置キ屋傍ノ小舎ニ雷氣機械ヲ据ヘ此ノ機械ヨリ中
庭ヲ経テ二條ノ電氣線ヲ該屋ノ壁下ニ通シ夫ヨリ壁
ニ由テ之ヲ二階ニ昇シ右ノ条條ト連続セシメ又壁ニ位テ
之ヲ下階ニ降シ隧道ヲ経テ鑛道ノ下ナル地雷火坑ニ達
セシメ以テ右ノ爆炎ヲ起シタルノ痕跡ヲ発見セリ又電
氣機械ノ傍ニ一ノ孔アリ此ノ孔ヨリ鑛道ノ模様ヲ窺ヒ
シモノト見ヘタリ鑑定人ノ鑑定ニ據レハ右隧道ノ穿造ハ
廿日ヨリ少ナカラザル時日ヲ費シ二人已上ノ手ニ成リタルモノ
ニシテ地雷火ハ二トログリウエリシ類ノ物ヲ以テ製造シタルモノ
ナリト右スホルコフナル其妻ト称セシ婦人ト共ニ一千八百九
九年九月初旬莫斯科科府ニ来リ同月十三日平民コノク

日^報家ヲ買ハレ同十九日之ニ轉居シ言ヲ修繕ニ託レテ從
未此家ニ寄寓セシ人ヲ辞シ穴藏ヲ穿造ストテ林下ノ地ヲ
掘リ始メ爾来下階ノ窓戸ヲ密閉シ室内ニ許多ノ板及ヒ
鑛管ヲ埋搬シタリ右兩人共地雷火爆炎ノ日並ハ此家
ニ居住セシカ爆炎後忽チ逃亡セリ此スホルコフト称セシ者ハ
其實アルハシゲリスリノ平民レフニヨラエフガルトマンニシテ現今
外國ニ潜匿シ其妻ト称シ同居セシ婦人ハ貴族ソビヤリウ
ワ、パロフスカヤナリキ隧道ヲ穿キ地雷火ヲ備ヘシ此兩人ノミ所
為ニアラス他ノ同類ト共ニセシカ先帝莫斯科科府ニ到着ノ
前日同類ノ者ハ該府ヲ去リ獨リガルトマントセロフスカヤノ
兩人ノミ家ニ止リロスカヤハ鑛道ニ注日シ列車ノ来レヲ見
合圖ヲ以テ之ヲガルトマンニ報シガルトマンハ其合圖ニ因リ電
氣ヲ通シ地雷火ヲ爆炎セシメタリ

第四

誣黨ノ者ハ古ノ後モ猶ホ其志ヲ逞フセント欲シ數人比
德堡府ニ来リ同府ニ於テ更ニ先帝弑逆ノ事ヲ企圖セ
リ前条數度ノ凶變起ルヤ其後毎ニ誣黨ノ行政局
ト唱フルモノヨリ擧文ヲ刊行シ右數度ノ犯罪ヲ以テ曾ニ
誣黨ノ所為ト明言セシメミナラズ是レ實ニ曾國人民ノ冀
望スル所ナリト唱ヘ必ス此惡事ヲ遂ケ以テ人民ノ望ヲ滿サン
ト欲スル旨廣告シ一千八百八十年二月五日冬宮ニ於テ地雷
火爆桑ノ後ニモ亦此擧文ヲ刊行セリ

キバリテ、ハ一千八百七十九年十二月比德堡府ニ来リ其姓
ヲアガチエロフト偽称シ初メザバルカニ街十番地ノセウピ
ント云フ旅店ニ投宿シ後ポドリスマ街十一番地ニ轉居
シ其妻ト称セシ一ノ婦人ト同寓シ密放所ヲ設ケ次子ヲ

スキート偽称シリゴフカ街八十三番地ニ轉居セリペロフスカヤハ測

役ウオ井コフノ寡婦リツヤ、アントーノウナト偽称シ一千八百七

十九年ノ秋ヨリ僧ノ女オリガ、シポウ井ムト称セシ婦人

ト共ニペテルブルク區ノポリシヤ、ベロセルスカヤ街トマーヌ、ハトセルス

カヤ街ノ角ニ住居シ後イスマイロフスキーポルク街ニ轉居

シ同年十月中右シポウ井ムト立後ゼリヤーホフモ亦其姓ヲニ

コライ、スウイトウ井ニスキートト変シ同所ニ寓居セリ右ノ

外誣黨一般ノ用ニ供セシ家宅ニシテ本被告人等カ陰謀

所ト称セルモノヲ諸所ニ於テ発見セリ其六、ボルシヤ、ポド

ヤーチエスカヤ街三十五番地ニ在リ此所ニ於テハ、シナミール

ヲ製造シキバリキ、自ラ其製造ニ手與セリ其三、ハトロ

イナン街十七番地ニ在リ此所ニハ一千八百八十一年二月十七日

迄莫斯科ノ子ハ、アムドレイ、ニコライウ井キト称セシ人等

其妻女エリザベータト共寓居セリ此妻ト称セシトハヨク
本被告人ゲリフマンニテアマリキ其三ハテレシナヤ街五番
地ニ在リ此所ハ右ノゲリフマントロイテシ街ヨリ轉移シ
サハントエツノ国支配者ト同居シ夫婦ト呼ビ其姓ヲ
フエツセンコ、ナウロッキート偽称セリ

凶徒等比德堡ノコロウヤ、サドウマ街ニ地雷火ヲ設ケ之
ヲ破裂セシメ又ハ破裂弾ヲ抛キ先帝亞歴山德ニコラ
イウ井ナヲ執害セント謀シ謀主ゼリヤ、ボフハルイサコフニ
ハイル、ミハイル、イウノフト称セシ者及其他ノ者ヲシテ右陰
謀ヲ実行セシメント欲シ教唆鼓動シテ之ニ同意セシメ
且自ラ此ノ数人ニ指揮シテ其設備ヲ為サシメタリ他ノ
凶徒等ニ地雷火構造ノ事ヲ擔當シゼリヤ、ボフモ亦之
ヲ助ケタリキバリテハ破裂弾ノ製造ニ從事シ、ロフマ

カヤハ常ニ先帝ノ出入ニ注意シ其模様ヲ窺ヒルイサコ
フハイル、ミハイル、イウノフト及其他ノ者モ亦之ニ干豫セ
リ又右ノ者共三月一日ノ設備ヲ為スカタメ時々集
會シテ之ヲ商議シ其集會ハ專ラテレシナヤ街ノ宅ニ
於テセリ此所ハ先帝ノ設備ヲナスガ為メ特設セシモノニテ
其主人タリシハゲリフマン及サブリンニシテ此兩人ハ夫婦ト
呼ビ其姓ヲフエツセンコ、ナウロッキート偽称セリゼリヤ、ボフハ
ロフスカヤルイサコフ、ミハイル、キバリナ、及ヒミハイル、イウノフト等
ハ皆ト同所ニ往來セシモノニテキバリナ、ハ自ラ製造セシ破
裂弾ノ雛形ヲ同所ニ携フヘ来リ其製法ヲ同謀ニ説明
セリ後キ二月廿八日ルイサコフ、キバリナ、ミハイル、及ヒミハイル、
イウノフト四人府外冥隠無人ノ地ニ坐リ雛形ノ破裂弾ヲ試
験セリ謀主ゼリヤ、ボフハ二月二十七日既ニ逮捕セラレ

レ氏ルイサコフミハイルイフフミハイル其他同謀ノ者ハニテテ
契約ヲ守リ三月一日午前九時テレミナヤ街ノ宅ニ參集シ
踵テキバリテ、ペロフスカヤノ兩人各破裂彈ニ箇ヲ携ヘ同
所ニ會セリ其破裂彈ハ前夜キベリテ、カ製造セシモノ
ナリ此所ニ放テペロフスカヤ鉞筆ヲ執リ書翰袋ヲ表面
地圖ヲ画キ各同謀者ノ向テ所ヲ定メ且犯罪ヲ遂クヘキチ
著クモノ通り指定セリ若シ先帝マローヤ、サドウワヤ街ニ由
テミハイル練武場ニ臨奉シ玉フ時ハ同街ノ地雷火ヲ破裂
セシムベシ然レ氏地雷火其功ヲ奏セザルノ恐レアリ故ニ破
裂ヲ携フル者該街ノ兩端ニ居ラズニアルベカラスカヤ
ルイサコフ、ミハイル、イウノフ外兩名之ニ当ルベシ若シ又先帝
マローヤサドウワヤ街ヲ通過シ玉ハサル時ハ右四人ノ者ハペロス
カヤノ合圖ニ思リエカテリナ渠岸ニ趣キ先帝練武場ヲ去リ

例ノ如クミハイル宮ニ臨幸ノ後冬宮ニ還幸シ玉フヲ待テ
破裂彈ヲ抛ツベシト情先帝ハマローヤサドウワヤ街ニ由
ラスミテ練武場ニ臨幸シ地雷火ノ難ヲ免レ玉ヒ歸途
ミハイル宮ニ駐驛アリケレハ終始其近傍ニ在テ先帝通
行ノ模様ヲ窺ヒ居リシペロフスカヤハ合圖ヲ以テ忽チ之ヲ
マローヤサドウワヤ街ニテ破裂彈ヲ携フル四人ノ者一報
シエカテリナ渠岸ニ趣カシノ同所ニ放テ遂ニ露國人民ヲ
シテ悲歎止マサラシムルノ凶変ヲ生セリ

第五條

ルイサコフハ前ニ陳述セシ如ク犯所ニ放テ捕ニ就キミハイル
イウノフニコラト叙セシ者ハ其掬キタル彈丸ノ破裂ニ因リ重傷ヲ
蒙リ遂ニ死亡シセリヤ、ホフハ右凶變ノ前乃十二月二十七
日逮捕セラレメリ同人カ其姓ラスウトウサンスキ變ニリ

ト 終

ウ井ニロフト称セシ婦人ト同寓セシ家宅ヲ搜索セシ爆薬
物製造ノ用ニ供セシ種々ノ舎密機城アリシ外鉄葉製
ノ函四箇樹脂製ノ管貳本ヲ發見シ該函ノ底ニ黒
色ノ物ヲ残セリ仍テ鑑定人ヲシテ之ヲ鑑定セシルニ右ノ黒
色ノ物ハ鉛トドニテ樹脂製ノ管ハ破裂彈ノ製造ニ用
ルモノト同品ナリトリジヤウオ井ノワト称セリヤボフト同寓
セシ婦人ハセリマーボフガ逮捕セラレシ翌日右ノモノ脱レ三月
十日ニ至リテ捕ニ就キタリシニ此婦人ハ貴族ソヒヤリウオワ
ペロフスカマニテアリキ同人ノ衣服懐中ヲ搜索セシニ三月一日ノ
凶變ニ関シ該管點ノ刊行セシ檄文ヲ得タリ

第六

本事件ヲ取調ツカシタル時テレジナヤ街五番地ニ凶
徒等集會シテ三月一日ノ犯罪ヲ遂ルノ設備ヲナシタル

宿所アルコトヲ確知セラシテ三月二日夜半過キ突然檢察
官ヲ該宿所ニ派遣シ之ヲ搜索セシメタリ檢察官等右
ノ宿所ニ至リ其來臨セシ所以ヲ閉鎖シタル入口ノ戸ヲ隔
テ其内ナル一人ノ者ニ告ゲタリレ時戸内ニ於テ忽然數奈
ノ砲声起リ次テ一ノ婦人來ツテ戸ヲ開キレ以テ檢察官戸
内ニ進入セシニ此際自砲殺セシト見ヘタル一人ノ男最初ノ
室ニ横ハリ流血淋漓タルヲ發見セリ此家ノ人別帳ヲ檢閲
スレニハ男ハ其姓ヲフエウセンコ、ナウローウキート称レハ場ニ於テ
捕ニ就キタル右ノ婦人ヲ妻ト呼ビ偽造ノ旅券ヲ以テ第
五番ノ宿所ニ住居セシ者ナリレカ其實貴族ニラライアレキ
セーエスサガリント云フ者ニテ其妻ト称セシ婦人ハ平民ゲヤ
ミローウヤ、ゲリフマンニテアリキ檢察官等搜索ヲ始メントセシ
時右ノ婦人此宿所ニ爆薬物ヲ盛リタル種々ノ器具アルハ故

ニ宜ク之ニ注意スベキ旨ヲ告ケタリレカ果シテ三月一日ノ犯罪
ニ関セルモノ證據物件ヲ発見セリ申一破裂弾丸ニシテ
葉ノ函ニ筒第二比德堡府ノ圖ニ收此圖ヲ附スルニ冬宮ノ
處ニ鉛筆ヲ以テ記シタル環線アリ又練武場ヨリインゼ子ル
街ニハイル宮及ヒエカテリテ渠岸ニ由テ鉛筆ヲ以テ施シタル
數條ノ線アリ申四書翰袋ノ面ニ地圖ヲ画キタル者アリ比
德堡府ノ地圖ヲ取テ之ト比校スルニエカテリテ渠岸ヨリ
練武場マテノ道筋及ヒマーウヤサドウワヤ街並傍ノ地圖ニ
類似セリ

三月三日ノ朝古搜索ヲ終リタル後該宿所ヲ奉訪スルモ
ヲ捕ンガガメ警言察官ヲ残レ置キタリレ二人ノ男來リ該
宿所ニ通セル梯級ヲ攀十二階ニ昇ラトセシ時門丁セルゲイ
ナル者之ヲ見テ何クニ行クヤト問ヒレニ右ノ男ハ馭者某ツ

訪フト答ヘ第十二番ノ宿所ヲ指シタリレカ十二番ノ宿所ハ
居住人無キ所ナレハ其道辭ナルヲ知り門丁ハ之ヲ五番ノ
宿所ニ白引シ此所ニ於テ捕ニ就ケリ警言察官等右ノ男ノ
衣服懷中ヲ搜索セントセシ時衣囊ヨリ短銃ヲ取り出シ
警言察官ニ向ケテ突巡査デニシテ重傷ヲ負ハセ警言部補ス
ル一ツキニ輕傷ヲ蒙ラセメリ此男ハ農民ナクハイル、ミ
ハイロフトムフモノナリキ

第七

一千八百八十一年三月四日マーヤ、サドウワヤ街ト子フスキー街ノ
角ナル家宅ノ最下階ニアル乾酪店ノ主人平民アルモウエス
コボツフ其妻エレーナ、ヒヨウドロウト共ニ逃亡レ其店ニハ土塊堆
積シ且種々ノ掘地具ヲ発見セル旨該家ノ門丁告訴セリ
仍テ檢察官等之ニ臨檢セシ店ノ隣室之壁ヨリ隧道ヲ穿

ツコラヤ、サドウヤ街、中央ニ凡ソニアド程ノコシナト止ラ
埋ノ右ノ室内ニ電光械ヲ置キ是ヨリ電氣ヲ通シテ破
裂セシムルノ仕掛ヲ為レ店先ニハ乾酪ヲ陳列シタレ氏其傍
ニ在ル樽桶類及店ノ林下等ハ皆ナ土塊ニテ充塞シ且堀地
具地雷火製造器械等諸所ニ狼藉セリ鑑定人ノ評ス
ル所ニ據テハ若レ此地雷火ヲシテ破裂セシメハ街ノ中央ニ口経
ニカレセシノ坑ヲ生スヘク而ノ近隣ノ家屋ニ於テハ玻璃窓ノ破
壊スルハ言ヲ待タズ燧燼天井ノ如キモ恐クハ顔潰スベシト
臨時裁判所ハ前頭ノ犯罪ヲ審判シ刑法第九、中十三、中
十八、中百三十九、第百五十二、中二百四十一、中二百四十二、中四
三、第二百四十九條及第一千四百五十九條ニ基キ本被告人ハ
名ノ公權ヲ剝奪シ紋罪ニ處スル旨ヲ宣告セリ